

文教厚生常任委員会が視察

根室市議会文教厚生常任委員会(鈴木一彦委員長)は8月23日(金)帯広市にある「市民活動プラザ六中」を視察しました。



担当者(右端)から説明を聞く文教厚生常任委員会のメンバー

「市民活動プラザ六中」とは、2011年3月で帯広市立第六中学校が統廃合されることになりました。帯広市教育委員会としては、建物が古かったこともあり、壊して更地にして、住宅地として活用しようと考えていました。しかし、

近隣住民から建物を残してほしいという要望があり、管轄を市障害福祉課に移して、福祉の場所であり、地域住民が活躍できる場である「市民活動プラザ六中」が誕生しました。

住民のみなさんが自発的に「これをして」と動いたり、誰かのために自分のできることをして誰かの役に立ったり、障害の有無、どんな年齢の方でも気軽に交流できる場所であれば存続しましょうということになり、現在に至っています。

館の運営は、入居している法人格をもつ団体(十勝障がい者支援センター、ワークサポートふれあい、とかち共同作業所)でコンソーシアムを作り運営しています。建物は市の物件ですが運営は独自に行っています。

オープン当初は、近隣の住宅を一軒一軒訪問してアンケートを行い、困りごとなどを聞いています。この地域でも独居老人の方が増えていて、食事に困る、出かける場所がないなど、率直なご意見を伺いました。そこで、誰でも気軽に来ていただける場所の一つとして食堂を営業することになりました(一食300〜400円の価格設定、ボランティアによる運営)。(以上、担当者による説明内容)

なぜ「市民活動プラザ六中」を視察したのか
きっかけは、5月17日に行われた議会報告会でした。報告会に参加された市民の方が「プラザ六中」を紹介し、根室市でも参考にしたい、とご提言をいただきました。それを受け、所管する文教厚生常任委員会で議論し、今回の視察に至りました。

視察を終えて
日帰りという強行スケジュールでしたが、得るものは大きかったと感じています。

廃校舎の有効活用

根室市においては現在、旧華岬小学校舎の一部は地域のスポーツ施設として活用されていますが、共和、瑛瑤瑠、温根元の旧校舎は有効活用されている状態とは言えません。また、今後においても、学校統廃合などにより廃校舎が発生する可能性があります。廃校舎の有効活用という観点からも、「プラザ六中」の取り組みは大いに参考になります。

担当者の説明の中で、「地域を育てる」という言葉がありました。「プラザ六中」を通して、地域コミュニティがしっかりと育まれていることを実感しました。